

一八八二年十一月十六日(木)

六本腕の聖像礼讃とラージモハン氏の家を訪問——ナレンドラ

タクール、聖ラーマクリシュナは昨日、馬車でサーカス見物に行かれたが、今日もまたカルカッタにお見えになっている。キリスト暦一八八二年十一月十六日、木曜日。カルテイク月白分六日目、オグロハヨン月一日である。お着きになると最初にガランハタ(現ニームタラ通り)で、六本腕のマハーブラブ(チャイタニヤ)の像をお詣りまごされた。ヴィシユヌ派の修行者たちの集会場である。ギリタリ・タースが僧院長として、ずっと以前から六本腕のマハーブラブ(チャイタニヤ)にお仕えしている。タクールは午後、お参りされた。

夕方近く、タクールはシムリヤ地区のラージモハン氏の家に、馬車でお着きになった。タクールはここにナレンドラを始めとする青少年が集まって、ブラフマ協会の礼拝儀式を行っていることを人づてに聞かれたからである。それで見に来られたのだ。校長と一、二の信者がいっしょだった。ラージモハン氏は昔からのブラフマ協会の会員であった。

〔ブラフマ協会員、およびすべてを捨てること、又は出家〕

タクールはナレンドラに会って大そうお喜びになった。そして、「お前たちの礼拝を見せておくれ！」とおっしゃった。ナレンドラは聖歌をうたい始めた。プリヤ氏はじめ、青年たちのたれかれが出席していた。

いよいよ礼拝が始まった。青年たちの中の一人が先導して、祈りの言葉を唱えた。神よ、すべてを捨てて、あなたに浸り切ることが出来ますように！ きつと、タクール、聖ラーマクリシュナが来られたのを見て、靈感を受けたのに違いない。それで、すべてを捨てる、という言葉が口に出たのだろう。校長はタクールのすぐそばに坐っていたので、彼だけがタクールの低くやわらかいお声を聞くことができた。

「どうだろうなあ！」

ラージモハン氏は飲み物を差し上げるために、タクールを奥の方にお連れした。